

【別冊③】用語集

ページ	用語名	定義
2	スマートシティ	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバルな諸課題や都市や地域の抱えるローカルな諸課題の解決、また新たな価値の創出を目指して、ICT 等の新技術や官民各種のデータを有効に活用した各種分野におけるマネジメント（計画、整備、管理・運営等）が行われ、社会、経済、環境の側面から、現在および将来にわたって、人々（住民、企業、訪問者）により良いサービスや生活の質を提供する都市または地域
4	都市OS (データ連携基盤等)	<ul style="list-style-type: none"> ● スマートシティ実現のために、スマートシティを実現しようとする地域が共通的に活用する機能が集約され、スマートシティで導入する様々な分野のサービスの導入を容易にさせることを実現するITシステムの総称 ● 求められる機能は「スマートシティリファレンスアーキテクチャ」に掲載されているが、大きくは①相互運用（つながる）、②データ流通（ながれる）、③拡張容易（機能を広げられる）、という3つの特徴に整理できる。 ● OSの誕生によって、異なる種類のコンピューターで同一のソフトウェアが利用できるようになったことに由来し、データ連携基盤などのことを比喻として「都市OS」（海外ではCity OS）と呼ぶ。しかしながら、コンピューターと違い、（都市）OSがなくとも都市自体は機能することから、OSというよりも、「様々な都市のデータやサービスを繋ぐネットワークのノード（結節点）」だと捉える方が正確である。

ページ	用語名	定義
8	Society5.0	<ul style="list-style-type: none">サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱
8	トラスト	<ul style="list-style-type: none">サイバー空間の自由で安心・安全なデータの流通を実現するためにデータの改ざんや送信元のなりすまし等の防止により、データの信頼性を確保すること。
8	DX (Digital transformation)	<ul style="list-style-type: none">ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変革させることICTが人々の生活を良くしていくことについては、従来から主張されていたことであるが、デジタル・トランスフォーメーションにおいては、その産業のビジネスモデル自体を変革していくということ

ページ	用語名	定義
8	SDG s (Sustainable Development Goals)	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標 持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っている
8	IT（Information Technology） ICT（Information & Communications Technology）	<ul style="list-style-type: none"> ITは情報技術、ICTは情報通信技術を指す。ほぼ同じ意味の言葉であるが、ITはコンピューターなど情報技術そのものであるのに対し、ICTは情報技術に加えてインターネットのような通信技術も含む。
9	ワーケーション	<ul style="list-style-type: none"> 「ワーケーション」とは、ワーク（仕事）とバケーション（休暇）を組み合わせた欧米発の造語で、長期滞在先でパソコンなどを使って仕事をすること
9	AI (Artificial intelligence)	<ul style="list-style-type: none"> AIとは、人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム、あるいは人間が知的と感じる情報処理・技術といった広い概念 AIのうち、人間の学習に相当する仕組みをコンピューター等で実現するものが機械学習（Machine Learning）、機械学習のうち多数の層からなるニューラルネットワークを用いるものを深層学習（Deep Learning）という
10	スマートローカル	<ul style="list-style-type: none"> 東京一極集中を是正し、地域間格差を解消する上では、デジタル技術を活用しつつ、地方都市・地域を生活の場として、さらにはイノベーションのゆりかごとして再生することが極めて重要という観点から、モビリティ、医療、福祉などの生活サービスのスマート化、ワーケーションなどリモートビジネス環境の形成等を、都市間連携を基本に、地域資源を生かし身の丈に合ったスマート化を図ること

ページ	用語名	定義
11	Well-Being	<ul style="list-style-type: none"> 「ウェル・ビーイング」とは、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念であり、OECD が公表している“better life index”は、OECD が幸福に必要な不可欠と特定している物質的な生活条件（住宅、収入、雇用）と生活の質（共同体、教育、環境、ガバナンス、医療、生活満足度、安全、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立））（計11 項目）から算出されている。
14	デマンドサイド (demand side) サプライサイド (supply side)	<ul style="list-style-type: none"> デマンドサイドとは需要側、サプライサイドは供給側という意味であり、スマートシティにおいては、スマートシティのサービスを提供する側をサプライサイド、サービスを楽しむ側をデマンドサイドという。
15	デジタルリテラシー	<ul style="list-style-type: none"> ICTを用いてデジタル情報を発見、理解、評価、創造、伝達する能力であり、認知および技術的スキルの双方を必要とする
15	パーソナライズ	<ul style="list-style-type: none"> 顧客全員に同じサービスやコンテンツを提供するのではなく、一人一人の属性や購買、行動履歴に基づいて最適な情報・サービスを提供する手法
15	レジリエンシー (Resiliency)	<ul style="list-style-type: none"> 強靱性のこと。何らかのリスクや危機を「乗り越える力」であり、①致命傷を受けない（致命傷回避）、②被害を最小化する（被害最小化）、③すぐに回復する（回復迅速性）ことが求められる
15	パーソナルデータ	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報（個人情報保護法に定義された「生存する個人に関する情報であって、氏名や生年月日等により特定の個人を識別できるもの」）に加え、個人情報との境界が曖昧なものを含む、個人と関係性が見出される広範囲の情報
19	コンソーシアム	<ul style="list-style-type: none"> 複数の組織（企業、地方公共団体等）が集まり共通の目的を持ち事業活動する集団（共同事業体）のこと

ページ	用語名	定義
19	ガバナンス	<ul style="list-style-type: none">「組織などをまとめあげるために方針やルールなどを決めて、それらを組織内にあまねく行き渡らせて実行させること」という意味で、「統治・支配・管理」という語に相当する
21	エリアマネジメント	<ul style="list-style-type: none">特定のエリアを単位に、民間が主体となって、まちづくりや地域経営（マネジメント）を積極的に行う取り組み。
21	スマートシティ運営法人	<ul style="list-style-type: none">スマートシティを運営するため、推進主体のもとに特別に設置される法人（株式会社、社団法人等）
21	地域まちづくり団体	<ul style="list-style-type: none">エリアマネジメント法人やタウンマネジメント組織（TMO）など、特定地区の関係者により構成され、当該地区の活性化や質的向上等の取組を担っている団体
24	アーキテクト	<ul style="list-style-type: none">アーキテクトとは、建築家、設計者などの意味を持つ英単語。ITの分野では、大規模なシステムや製品の全体的な設計を行う技術者を指すことが多い。スマートシティにおいては、地域課題の設定や計画の作成、先端的技術の活用など、スマートシティの構想全体を企画する人物やその役割のことをいう

ページ	用語名	定義
26	<p style="text-align: center;">CIO (Chief Information Officer) CDO (Chief Digital Officer)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • CIOは最高情報責任者、CDOは最高デジタル責任者のこと。政府CIOポータルにおけるCIOの役割定義は「企業グループ全体のIT活用を俯瞰し、業務、情報システム（IS）の構造と共に、企業グループ全体のIT部門の機能と役割を変革し、企業の“全体最適化”実現に貢献する。」とされている。同様に、政府CIOポータルにおいては「全社横断のビジネス変革」をミッションとするChief Innovation Officerや、「情報活用による経営戦略の創造」をミッションとするChief Intelligence Officerも定義されているが、企業における実装ではこれらのミッションをCIOではなくCDOが担っている事例が見受けられる。 • スマートシティにおいては、行政のデジタル化を指導統括する最高責任者（CDO）を地方公共団体が設置する事例も見受けられる • CDOは「Chief Data Officer（最高データ責任者）」を指す場合もある。
27	<p style="text-align: center;">スーパーシティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 2018年に内閣府が打ち出したスマートシティの一類型。住民が参画し、住民目線で、2030年頃に実現する未来社会を先行実現することを目指す構想であり、国家戦略特別区域法に基づく。①生活全般にまたがる複数分野の先端的サービスの提供、②複数分野間でのデータ連携、③大胆な規制改革、を主なポイントとしている。

ページ	用語名	定義
31	サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> 仕入先、供給元、納品業者などの意味を持つ英単語。業務や事業、商品に必要な機材や資材、部品、原材料、サービスなどの売り手のこと スマートシティにおいては、スマートシティのサービスを提供する主体のことをいう
31	リビングラボ	<ul style="list-style-type: none"> オープンイノベーションを生活の場で実践すること。 具体的には、複雑な社会課題を解決するために、生活環境での実験を通して利用者と提供者が共創プロセスから実装と評価を重ね、そこからサービスや商品を生み出す一連の活動を指す。
34	API (Application Programming Interface)	<ul style="list-style-type: none"> あるサービスやアプリケーションにおいて、その機能や管理するデータ等を他のサービスやアプリケーションから呼び出して利用するための接続仕様等。
34	サイロ型システム	<ul style="list-style-type: none"> サイロ（家畜飼料などの倉庫）が、垂直的で窓が無く中から周囲が見えない例えから、他のアプリやサービスと連携することなく孤立したシステムを意味する。 サイロ型システムが個別に構築された場合、データやアプリケーションの互換性確保等に支障が生じ、ロックインが発生する懸念があり、レイヤー横断的な視点に留意する必要がある。
37	IoT (Internet of Things)	<ul style="list-style-type: none"> 「モノのインターネット」。そのコンセプトは、自動車、家電、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すというもの。

ページ	用語名	定義
37	GIS (Geographic Information System)	<ul style="list-style-type: none"> GIS（地理情報システム）は、「地理空間情報の地理的な把握又は分析を可能とするため、電磁的方式により記録された地理空間情報を電子計算機を使用して電子地図上で一体的に処理する情報システム」と定義され、位置に関する様々な情報を持ったデータを電子的な地図上で扱う情報システム技術の総称
37	オープンデータサイト	<ul style="list-style-type: none"> 営利・非営利を問わず二次利用可能なルールが適応され、機械判読に適しており、無償で利用できる公共データの案内・横断的検索を目的としたサイトを指す
38	ITベンダー	<ul style="list-style-type: none"> コンピューターシステムやネットワークシステムなどの提案・開発・コンサルティングを行う企業の総称
38	アジャイル	<ul style="list-style-type: none"> 「俊敏な」「すばやい」という意味の英単語で、要求仕様の変更などに対して、機敏かつ柔軟に対応するためのソフトウェア開発手法。アジャイルでは、仕様や設計の変更があることを前提に開発を進めていき、徐々にすり合わせや検証を重ねていくというアプローチをとる
43	ベンダーロックイン	<ul style="list-style-type: none"> コンピューターシステムなどを構築する際に、ある特定のメーカーの製品・システム・サービスに依存した構成にすることで、他社への乗り換えが困難になること

ページ	用語名	定義
44	PoC (Proof of Concept) PoB (Proof of Business)	<ul style="list-style-type: none"> • PoCとは、新しい技術や理論、原理、手法、アイデアなどに対し、実現可能か、目的の効果や効能が得られるかなどを確認するために実験的に行う検証工程のこと • PoBとは、PoCで顧客に提供するサービスの中心価値が分かったら、実際にその価値を起点にし、どのようにビジネスとしてお金をとっていくのか、その方法を構築し、実際に顧客にとって金銭を払う価値・体験を探索していくこと
52	グリーンフィールド	<ul style="list-style-type: none"> • 埋立地や工場跡地などの更地を新規に開発し、そこに新たに住民を集める新規開発型の手法。 • 対して、既存の街区における再開発を「ブラウンフィールド」と呼ぶ。
60	エコシステム	<ul style="list-style-type: none"> • ビジネスの「生態系」であり、企業や顧客をはじめとする多数の要素が集結し、分業と協業による共存共栄の関係を指す
3	スマートシティ リファレンスアーキテクチャ	<ul style="list-style-type: none"> • スマートシティを実現しようとする主体が、スマートシティを実現するために必要な構成要素と構成要素間の関係性、そして、スマートシティ外との関係を確認するために参照する共通的な枠組み。スマートシティを実現しようとするものが、自身のアーキテクチャを作成するために参照するもの
62	PIA (Privacy Impact Assessment)	<ul style="list-style-type: none"> • プライバシー影響評価。個人のプライバシー等の権利権益を侵害する可能性、それによる影響を予測し、そのリスクを分析した上で、そのようなリスクを軽減する措置を講じていることを確認する行為。
75	オプトイン	<ul style="list-style-type: none"> • 一般的には、ユーザーが情報を受け取る際や自らに関する情報を利用される際などに、許諾（パーミッション）の意思を示す行為のこと • スマートシティにおいては、取得・活用するデータの種類、利用目的、利用先等を明示し、利用者の同意を得た上で、データを取得・活用することをいう • オプトイン方式に対して、本人が反対をしない限り個人情報の第三者提供に同意したものとみなすものをオプトアウト方式という。

ページ	用語名	定義
76	LPWA (Low Power Wide Area)	<ul style="list-style-type: none"> 従来よりも低消費電力、広いカバーエリア、低コストを可能とする無線通信システムのこと 通信速度は数kbpsから数百kbps程度と携帯電話システムと比較して低速なものの、一般的な電池で数年から数十年にわたって運用可能な省電力性や、数kmから数十kmもの通信が可能な広域性を有している
81	スモールスタート	<ul style="list-style-type: none"> 新たな事業を立ち上げる際に、最初は機能やサービスを限定するなどして小規模に展開し、需要の増大などに応じて順次規模を拡大させていくこと
82	クラウドファンディング	<ul style="list-style-type: none"> クラウドファンディングとは、「群衆（クラウド）」と「資金調達（ファンディング）」を組み合わせた造語で、「インターネットを介して不特定多数の人々から少額ずつ資金を調達する」こと
82	PFS (Pay for Success) SIB (Social Impact Bond)	<ul style="list-style-type: none"> PFSとは、国又は地方公共団体等が、民間事業者に委託等する事業であり、解決すべき行政課題に対応した成果指標を設定し、支払額等を当該成果指標の改善状況に連動させるもの。 SIBとは、PFSによる事業（PFS事業）のうち、民間事業者が資金提供者から資金を調達し、地方公共団体等から受けた支払に応じて返済等を行うもの。 公共は民間事業者が実施・提供したサービスが生み出す成果（社会課題の解決度合い）を客観的な指標に基づき評価し、その水準に応じた支払いを行うことを特徴とする

ページ	用語名	定義
82	企業版ふるさと納税	<ul style="list-style-type: none"> 国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組み
86	BID (Business Improvement District)	<ul style="list-style-type: none"> BID 制度について明確な定義はないが、一般的には、地理的に区画され多くの場合インナーシティに位置する地区で、不動産所有者や事業者から徴収される負担金により、その地区の維持管理、開発、プロモーションを行うもの 1970年代にカナダで生まれ、米国、英国をはじめとする多くの国に広がっており、世界で約2,000地区あると言われている。海外のBID制度を参考に、日本においても2018年に地域再生法が改正され「地域再生エリアマネジメント負担金制度」が創設された。
72	シビックテック	<ul style="list-style-type: none"> Civic（市民）とTech（テクノロジー）を掛け合わせた造語 市民がテクノロジーを活用して、地域が抱える課題を解決しようとする取り組みや考え方
104	マッシュアップ	<ul style="list-style-type: none"> 複数のソースから提供されたさまざまな情報やコンテンツを組み合わせ、新たなコンテンツやサービスなどを作ることを指す
107	ビッグデータ	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化の更なる進展やネットワークの高度化、またスマートフォンやセンサー等IoT関連機器の小型化・低コスト化によるIoTの進展により、スマートフォン等を通じた位置情報や行動履歴、インターネットやテレビでの視聴・消費行動等に関する情報、また小型化したセンサー等から得られる膨大なデータ
116	アクティブ・ブローカー	<ul style="list-style-type: none"> 都市OSにおけるブローカー機能（データ仲介機能）に由来し、都市OS運営者のことをブローカーとも呼ぶ。 アクティブ・ブローカーとは、積極的にデータ仲介を実施している都市OS運営者を指す。